

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【八王子中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	今後は、学年や領域ごとの到達度を丁寧に把握し、補充指導や再学習の機会を計画的に確保する必要がある。次年度は、日常的な反復学習を継続するとともに、学習履歴を活用した到達度の可視化を進め、学年・領域ごとの課題に応じた補充指導や再学習を計画的に実施する。 また、教科横断的に読解力や資料読解力の向上を意識した指導を推進し、知識を関連付けて活用できる力の育成を図るとともに、定期的な検証を通して指導方法の改善につなげていく。	
思考・判断・表現	今後は、条件整理や理由説明を重視した活動を授業の中に意図的に位置付けるとともに、ICTを活用した対話的な学びを通して思考過程の可視化を図り、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 次年度は、条件整理・比較・多面的考察を行う学習場面を授業の中に意図的に位置付け、課題解決過程を言語化させる指導を強化する。 また、ICTを活用した協働的な学びを深化させるとともに、学校図書館との連携を通じて読解力を高め、思考過程の可視化を図る。さらに、教科会や校内研修において実践を共有し、組織的に思考力育成に取り組む体制を強化する。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 個に応じた学習活動を充実させ、基礎事項の定着をはかる。 <指導上の課題> ・個別の達成度に合わせた学習への取組 ・基礎基本となる事項のさらなる定着	⇒ ・漢字や言葉の使い方等に関する事項、基本的な計算の反復・習熟を行うとともに、生徒の学習履歴を確認する。【通年・毎時間設定】 ・定期試験前の「八中タイム」の時間等を活用し、重点的に復習を行う。【通年・5回実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 昨年度、無答率が高い教科・設問があった。無答率を低下できるように学習の定着をはかる。 <指導上の課題> ・ICTの活用と、さいたま市「アクティブラーニング」型授業による主体的・協働的に学ぶ授業の推進	⇒ ・ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業実践に取り組む。【通年・毎時間実施】 ・学校図書館と連携した読書活動の充実により、読解力の向上を図る。【通年・毎日実施】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	①漢字や言葉の使い方、基本的計算の反復・習熟については、各教科において毎時間の授業の中で意図的に位置付け、継続的に実施した。 ②また、定期試験前の「八中タイム」を活用し、重点的な反復指導を計画的に行った。学習履歴の確認を通して個々の理解度を把握し、補充指導を行う体制も整備された。基礎事項の定着に向けた取組は概ね継続的に実施できている。	
思考・判断・表現	B	①ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを意識した授業実践を、各教科において推進した。特に、説明や理由付けを重視した活動を授業内に取り入れ、生徒が自らの考えを言語化する機会を確保した。 ②また、学校図書館との連携により読書活動を日常化し、読解力向上に向けた環境整備を進めた。授業改善の取組は継続的に実施されている。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語において、[1-]「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうか」で全国平均を4pt上回ることができた。しかし一方では、[3三]「事象や行為を表す語彙について理解しているかどうか」では全国平均0.9pt下回り課題を残す結果となった。数学においては、[1]「素数の意味を理解しているかどうか」、[7(1)]「必ず起こる事柄の確立について理解しているかどうか」、[8(1)]「事象に即してグラフから必要な情報を読み取ることができるかどうか」で、全国平均を5pt～20pt上回ることができた。	
思考・判断・表現	国語において、[4-]「読み手の立場に立って表記を確かめて文章を整えることができるかどうか」、[4二]「語句の用法叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるかどうか」で全国平均を4pt～5pt上回ることができた。数学においては、[7(2)]「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうか」、[9(2)]「総合的・発展的に考え、条件を変えた場合について証明を評価・改善することができるかどうか」で全国平均を8pt～11pt以上大きく上回ることができた。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	市学習状況調査における知識・技能の観点では、国語は市平均と概ね同程度で推移しており、基礎的な言語事項については一定の定着が図られている。一方、「我が国の言語文化に関する事項」では市平均との差が見られ、語彙や背景理解に課題が残る結果となった。数学では中1の「数と式」および「データの活用」で差が見られ、特に「データの活用」において基礎的理解と活用の接続に課題がある。社会は各分野で市平均を下回る傾向が継続しており、基礎事項の定着に改善の余地がある。理科では中2の「地球」領域で差が見られ、分野間の理解のほらつきが課題として明らかとなった。 基礎基本の定着については一定の成果が見られるものの、国語の語彙や言語文化、数学中1の「データの活用」、社会各分野および理科中2の「地球」領域に課題が確認された。特に、基礎的知識の理解から活用への接続に改善の余地がある。	
思考・判断・表現	思考・判断・表現の観点では、国語は市平均に近い水準を維持しているが、数学および理科、社会の一部領域において差が見られた。特に、数学の「データの活用」や理科中2の各領域では、資料を読み取り根拠をもって説明する力に課題がある。社会においても資料活用や多面的に捉える設問で差が見られ、思考の深まりに向けた指導の充実が求められる。 思考力・判断力・表現力については、数学の「データの活用」や理科中2の各領域、社会における資料活用問題に課題が見られたことから、資料を読み取り、根拠を明確にして説明する力の育成が重要である。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	主に、八中タイムを活用し、漢字や言葉遣いに関する事項について注力して指導を行った。また、基本的な計算の反復・習熟にも取り組んだ。その結果として、国語における知識・技能で全国平均を上回ることができた。数学における知識・技能においても全国平均を上回ることができた。両教科ともに、令和6年度値と比較すると、大きな進歩・向上が数値から確認できた。	・特に変更なし ・現在の取組を継続する。
思考・判断・表現	B	ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業実践に取り組んだ成果として、「データの活用」能力が全国平均を上回ることができた。 また、図書館司書及び司書教諭の尽力により読書活動が昨年度以上に推進されており、「読書(活字)慣れ」が成された結果、「読むこと」が県平均・市平均ともに上回る好結果に繋がった。	・特に変更なし ・現在の取組を継続する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)